

第4学年 研究のまとめ

	1 指導計画の工夫	2 指導過程及び指導方法の工夫	3 評価の工夫
G 3	<p>○1単位時間内の始めに、前時の復習や基礎的な内容を反復練習する時間を設定することにより、スムーズに本時の内容に入ることができた。また、学習内容を精選し、基礎的な内容に時間をかけられるようにした。</p> <p>▲グループの実態に応じて、小単元ごとの習熟の時間を設定するなど、学習内容を振り返りながらの定着を目指していた。だが、実際には他のグループに追いつくのが精一杯で、学習内容の定着が不十分のまま進まざるを得なかった。</p>	<p>○単元の中で自力解決させる時間を何時間か設定し、考える時間、話し合う時間を十分に保証した。操作活動や図なども積極的に取り入れることにより、言葉は拙いが自分の考えをまとめて発表したり、友達の考えを自分と比較して聞いたりする態度が少しずつ育ってきた。</p> <p>▲少人数ではあるが、その子によってつまづいている部分も違い、理解するまで時間がかかる子が多いため、なかなか有効な個別指導ができなかった。</p>	<p>○机間指導の機会を多く持ち、一人一人の学習に対する取り組みの様子や理解度を把握できた。また、ケアレスミスや、問題をよく読まずに取り組んだりする傾向が強かったため、学習カードを効果的に使った。ミスを減らそうとする意識が少しずつ出てきている。</p> <p>▲授業を進めることに追われ、確かめの問題をしたり、自分の学習を振り返らせ感想を書いたりする時間がなかなか取れなかった。</p>
G 2	<p>○これまで用いていた整数からはしたを表す方法として、初めて学習する小数・分数の考え方を子どもの側に立ってわかりやすくとらえられるように、系統性を意識して計画を立てた。視覚的にもはっきりつかめ操作もできるように、具体物→マス図→テープ図→数直線→言葉や式という流れも、同様に進めていけるよう教具を製作した。</p> <p>▲わり算の筆算などの単元は、学び直しの時間をもっと必要であると感じた。</p>	<p>○少人数を生かし、前時の復習を一問一答形式で全員に確認することができた。また、効率の良い授業の流れをするため、ワークプリントの工夫や吟味が大切だということがわかった。</p> <p>▲「数学的な考え方」に重点を置いて授業を組み立て、一人一人に自分の考えを持たせ説明できるようにしたいと思うと、練習問題をやる時間を削ることになってしまいがちになる。</p>	<p>○座席表を活用し、レディネスの結果や前時の評価をその都度チェックすることで、本時の児童の考え方が予想しやすくなる。また、手立てを要する児童もはっきりし、前もって支援の手立てを講じることが可能となった。</p> <p>▲算数を好きと答えることは喜ばしいのだが、客観的な自己評価に甘い児童もいる。自己評価能力を高めるため、学習チェックカードや感想を書くことを継続すべきだった。</p>
G 1	<p>○基礎基本の定着を図った上で、学習状況に応じて発展問題に取り組みさせた。また、児童が作成した問題プリントを交換して解き合うなど、児童同士の学び合いや交流できる場面を意図的に設定した。</p> <p>▲単元によりグループ内でも習熟度の違いが見られ、補充問題にも取り組みさせたが、人数が多いため個別に指導・支援する機会を十分に持てなかった。</p>	<p>○「小数」の単元では、ジュースに見立てた色水を用いるなど課題提示を工夫した。また、自作教具の活用や、マス図、面積図、数直線を段階的に取り入れたことにより、自力解決に導くための工夫ができた。</p> <p>▲小数や分数の単元以外では、わり算の筆算等適用問題に時間を割くことが多くなり、児童の考えを生かした学び合いの時間を十分に確保することは困難であった。</p>	<p>○単元ごとにレディネステストとプレテストを実施し、児童の実態を十分把握した上で指導にあたった。また、児童の問題解決の状況を座席表にチェックし、形成的評価による指導改善に努めた。</p> <p>▲授業の後、ノートに感想や学習のまとめを書かせる時間があまり取れなかった。また、学習チェックカードは、年間を通して十分活用できなかった。</p>

○ 成果 ▲ 課題